

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村昌司

事業名	一般国道256号 <small>かなやま げろ</small> 金山下呂道路	事業区分	一般国道	事業主体	岐阜県										
起終点	自：岐阜県下呂市金山町乙原 至：岐阜県下呂市保井戸	延長	5.4 km												
事業概要	金山下呂道路（L=5.4km）は郡上～中津川を結ぶ濃飛横断自動車道（L=80km）の中核となる道路である。当該道路は大交流時代を迎え岐阜県が進める「県土1時間整備構想」「高速ICアクセス30分交通圏」を実現すると同時に、「下呂温泉」という観光資源の活用、医療施設へのアクセス支援等の地域連携を担う重要な道路である。														
H9年度事業化	都市計画決定なし	H11年度用地着手	H12年度工事着手												
全体事業費	222億円	事業進捗率	49%	供用済延長	— km										
計画交通量	3,600台/日														
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 3.8	総費用 (残事業/事業全体) 88/221億円 事業費：83/216億円 維持管理費：5/5億円	総便益 (残事業/事業全体) 332/332億円 走行時間短縮便益：290/290億円 走行費用減少便益：35/35億円 交通事故減少便益：7/7億円	基準年	平成18年										
感度分析の結果	交通量変動：B/C=3.3(交通量-10%) B/C=4.2(交通量+10%) 事業費変動：B/C=3.5(事業費+10%) B/C=4.2(事業費-10%) 事業期間：B/C=3.5(期間+2年) B/C=4.0(期間-2年)														
事業の効果等	・下呂～郡上ICの時間短縮による利便性の向上（36分短縮） ・観光地「下呂温泉」への集客効果 ・国道41号の代替路線としての役割 <div style="text-align: right;">他 6項目に該当</div>														
関係する地方公共団体等の意見	金山下呂道路は、下呂市の観光産業の発展、高速道路との広域交通ネットワークを形成、地域産業の振興や相互交流の促進させることが期待されており、下呂市をはじめとする濃飛横断自動車道促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	東海北陸自動車道の全線開通の予定がH19年度に見えてきたことにより、高速道路の空白域である地元では、本路線への関心・要望が更に高まってきている。														
事業の進捗状況、残事業の内容等	下呂IC、金山ICのランプ整備中。金山下呂トンネルはL=4.9kmのうちL=2.5kmの覆工が完了し、残るL=2.4kmのトンネル工事を推進する。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	残るトンネル工事の推進を図り、早期に全線の供用開始を図る予定である。														
施設の構造や工法の変更等	トンネル残土の有効利用や、設計速度及び道路規格の見直しによりコスト縮減を図っている。														
対応方針	事業継続														
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <table border="1" style="margin-right: 20px;"> <tr><th colspan="2">凡 例</th></tr> <tr><td></td><td>供用中</td></tr> <tr><td></td><td>事業中</td></tr> <tr><td></td><td>再評価箇所</td></tr> <tr><td></td><td>うち供用中</td></tr> </table> </div>					凡 例			供用中		事業中		再評価箇所		うち供用中
凡 例															
	供用中														
	事業中														
	再評価箇所														
	うち供用中														

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。